



シリーズがん予防①

肺がん・結核検診

【問合せ】保健課

☎773-6811

肺がんとは

肺がんは、気管支や肺胞の細胞ががん化する病気です。代表的な原因は喫煙です。

喫煙との関係

たばこの煙には多くの発がん性物質が含まれています。喫煙者は、非喫煙者に比べて肺がんを発症する危険性が4〜5倍も高くなるという報告があります。喫煙歴がある人は、症状がなくても注意が必要です。

肺がんの症状

早期の肺がんは、症状がほとんど現れません。がんが進行すると、咳や痰、息切れなどの症状が現れてきます。ただし、咳や痰などの症状は、肺がん以外の病気でも現れる症状です。複数の症状が現れたり、長く続く場合は早めに医療機関を受診することが大切です。

肺がんは進行していても症状がほとんど現れない場合もあり、検診などで発見されることもあります。肺がん・結核検診を受けましょう

肺がん・結核検診は、40歳以上を

対象に、肺全体の胸部レントゲン検査を行います。

問診の結果、次に該当する人には、喀痰検査を勧めています。

- ① 50歳以上で喫煙指数（1日本数年数）が600以上
- ② 検診前6か月以内に血痰が出たことがある
- ③ 重クロム酸や石綿などを取り扱う仕事や鉱業などに従事していた

喀痰検査は、肺の入り口にある太い気管支にできるがんを見つけやすいといわれています。①〜③に該当する人は、胸部レントゲン検査と併せて喀痰検査を受診しましょう。

平成27〜29年度の検診結果

年度（平成）	27	28	29
受診者数（人）	7,336	7,526	7,216
要精検者数（人）	191	160	168
精検受診率（%）	95.3	89.3	89.3
がん発見数（人）	3	3	3

精密検査の受診率は100%に至っていません。喫煙者・非喫煙者に関わらず、精密検査の受診者から毎年がんが発見されています。

近年の肺がん・結核検診結果の特徴

過去の検診結果では異常なしだった人が、検診後数か月〜1年程度でがんを発症するような進行の早いがんの発見がありました。肺がんの早期発見・早期治療のために、毎年検診を受けましょう。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）
発症と現状

COPDは、たばこの煙などの有害物質を吸い続けることで気管支や肺に慢性的な炎症が起こり、機能を低下させる病気です。

粉じんなども発症の原因となりますが、最大の原因は喫煙です。別名「たばこ病」とも呼ばれています。患者の約90%が喫煙者であるというデータもあります。

平成28年の厚生労働省の統計では、日本人男性の死因順位で8位となっています。患者数は増加しており、COPDの死因順位は今後上がると予想されています。

残念ながら完治する治療法は確立されていませんが、早期に発見し治療することで、病状の進行を遅らせ

ることができま

症状

咳や痰、体を動かした時に息切れを感じたりします。「歳のせい」などと思いがちですが、病気が進行すると少し歩くだけでも息切れを起し、酸素吸入が常に必要になる場合もあります。

予防

最大の予防法は、喫煙をやめることです。

市内には、健康保険が適応される禁煙治療のできる医療機関があります。禁煙したい人は、まずは医師にご相談ください。保健課でも相談に応じます。

早期発見が重要です

がんは早期に発見し、適切な治療を行うことが重要です。積極的にがん検診を受けましょう。がん検診の申込みは、保健課まで。

